

群馬大学医学部附属病院、仮想統合により情報管理システムを全面刷新

～ 「止められない」病院システムの可用性と運用効率、安全性を向上 ～

ユニアデックスは、国立大学法人 群馬大学医学部附属病院の情報管理システムの構築を行い、2022年9月に新システムへの切り替えが完了し、運用を開始しました。

今回の更改では、「病院システムを止めない」ために仮想化技術を用いてシステムの可用性を高め、障害発生時の稼働継続の安定化を実現しています。さらには、運用コストの最適化とともに、サイバーセキュリティ対策も強化したシステム設計を行いました。

【システム概要図】



【背景】

群馬大学医学部附属病院は、北関東有数の基幹病院として地域の医療連携をリードしながら、多様化する医療ニーズへの対応に尽力しています。前回、2015年のシステム更改では、電子カルテの応答タイムの短縮のためにオールフラッシュ化を実行するなど、他の医療機関の先駆けとなる取り組みを推進しています。

今回、7年前の更改以降の課題であった落雷などによる停電時のサーバー障害への迅速な対応やシステム復旧時間の短縮を行うことで、安定稼働の向上を目指すとともに、高度化するサイバー攻撃への備えについても検討しました。

【概要と特徴】

新システムでは、物理サーバーで運用されていたほぼすべての病院内システムを VMware で仮想統合し、vSAN (ストレージ仮想化ソフトウェア) を用いた HCI(注1)を採用して高い安定稼働と運用効率を実現しました。

新システムの特徴は、以下の通りです。

- 電子カルテシステムのストレージは、超高速フラッシュの Pure Storage を採用し、従来システムと比較してレスポンスが最大 13 倍向上し、データ移行速度を大幅に高速化
- サイバーセキュリティ対策は、ランサムウェア攻撃時にも復旧できるストレージの機能を利用し、障害時にも迅速に電子カルテシステムの業務復旧が可能に
- サーバー、ストレージに加え、ネットワークの仮想化技術も活用し、物理サーバーの削減などによる省電力効果やハードウェアを二重化することで障害発生時なども継続稼動が可能に
- 仮想化によりハードウェア機器構成の複雑化を避けることで、調達コストの削減も実現

【今後の展開】

ユニアデックスは、今回のシステム更改でハードウェアの構築・運用ベンダーとして電子カルテサーバー、部門システム仮想基盤、端末、周辺機器などのハードウェア保守・運用常駐を担当するとともに、約 2,000 台の端末の手配や設定も実施しました。

今後もユニアデックスは ICT インフラのスペシャリストとして、医療機関をはじめとしたさまざまな業界のお客さまの情報システム最適化を強かに支援していきます。

以 上

注 1 : HCI (Hyper-Converged Infrastructure)

サーバー、ストレージ、ネットワーク、管理の要素を兼ね備えた、ソフトウェアベースの統合システム

■ 関連リンク :

「群馬大学医学部附属病院お客さま導入事例」

<https://www.uniadex.co.jp/casestudy/medical/gunma.html>

※記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

※掲載の情報は、発表日現在のものです。その後予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

<本ニュースリリースに関するお問い合わせ>

<https://www.uniadex.co.jp/cgi-bin/form/form-s.cgi>